

令和4年度第2回七尾市部活動のあり方検討委員会 会議録

1 日 時 令和5年2月27日（月）15時00分～16時07分

2 場 所 401会議室

3 出席者 八崎 和美 委員長（七尾市教育委員会）
佐原 鉄郎 副委員長（NASPO）
大森 重宜 委員（金沢星稜大学人間科学部教授）
國下 正英 委員 代理作井 英之（（公社）七尾市体育協会）
柘植 英一 委員 代理内田 一哉（田鶴浜スポーツクラブ）
前田 忠久 委員（なかじまスポーツクラブ）
谷内 博史 委員（能登島少年少女スポーツクラブ育成会）
井上 一幸 委員 代理坪野 昭（七尾市小中学校校長会）
野見 英輝 委員（七尾市中学校長会部活動検討委員会）
川下 五継 委員（七尾市PTA連合会）
小池 まり 委員（七尾市PTA連合会）
（辻口 正恵 オブザーバー（七尾市立中島中学校長））

横川 俊充 教育総務課長
山原 真吾 学校教育課長
善端 直 スポーツ・文化課課長
小林 義和 スポーツ・文化課課長補佐
岩端 長紀 スポーツ・文化課主幹
川向 藤和 教育総務課主幹

4 議事録

<開会>

（八崎委員長）

本日は、ご多用のところ七尾市部活動のあり方検討委員会にご出席いただきありがとうございます。12月に議会の承認を得まして、教育長を拝命いたしました八崎和美と申します。よろしく願いいたします。教育行政に全力で取り組んでいきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。昨年開催しました第1回検討委員会では地域スポーツ団体、保護者、学校など、それぞれの立場でのご意見をいただいたと聞いております。その後、昨年末になりますが、国において「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が策定されました。このガイドラインは、運動部活動や文化部活動の地域移行に関する検討会議の提言を受け、また地域の実情を踏まえて策定されました。少子化の中でも将来にわたり、子供たちがスポーツ等に親しめる機会の確保に向けて、部活動の地域移行に当たっては、地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てると意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるように、環境を整えていきたいと思っています。委員の皆様方には、これまでの経験を活かし、いろんな面からご意見をいただき、今後の円滑な地域移行にご協力いただけることを申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

<委員の出席>

全員参加（代理含む）

※今会議より4中学校校長の出席

オブザーバー 中島中学校 辻口正恵

<議事>

（八崎委員長）

次第に従い会議を進行するので、スムーズな進行に協力をお願いします。

それでは、会議次第2の議事に入る。「今後の部活動の地域移行について」事務局から説明する。

【協議事項】

今後の部活動の地域移行について

（川向教育総務課主幹）説明

（八崎委員長）

質問、意見どなたからでもよろしいのでお願いします。

（谷内委員）

資料1-1のスケジュールに関して、新年度は中島中学校で実証実験、それ以降は可能なところから移行する説明であった。例えば来年度途中で中島以外のところでやってみたいとか、この月だけ休日をやってみようかとか、地域側の課題が見えてくると思うので、期間限定で実証実験に手を挙げて行うことは可能でしょうか。

（横川教育総務課長）

参加するのは可能だと思う。ただ予算計上をしているので、予算の関係で支払いできないものも出てくる。試験的にやっていただくのは可能。

（谷内委員）

その場合は、指導者への費用などが払えないと、その計画が定まって、途中で予算の変更というか、年度途中で実証実験分を追加するような予算措置を取る可能性は無いということか。

（横川教育総務課長）

可能性はあると思う。そこは相談させていただいて、後半の半年間をやりますよという話になれば予算措置を考えていきたい。

（谷内委員）

今、能登香島中学校が能登島の児童の行先なわけで、中学校から報告があった3つについては、現状で土日にやる場合は、例えば七尾クラブとしてやる形でソフトテニスに合流してやっている。これまでやってきた実績もあるので、全てこの3つではないけれども、ソフトテニスに関して実証になるのか少し聞いてみたかった。2つ目は、部活動全般に渡って対象になる委員会だと承知している。今回はスポーツクラブ育成会会長として出席しているが、個人的にはオルビス NOTO という吹奏楽

団に所属していて、前回出ていた部活動の所属人数を見ると、ブラスバンドが80数名と大きいボリュームがある。今回報告に上がっているものは、主にスポーツ関連の団体のことばかりで、スケジュールを見ると、令和8年度以降は全ての部活動で地域移行を目指すとなると、文化芸術系の団体についても、実証していくようなプロセスを踏んでいかないと、スポーツ関係はこのまま進んでいくと思うが、文化芸術に関するスケジュール感とか、どうやっていくのか全く見えないので心配をしている。大人たちの指導できる人材も限られてくると思うし、実際に活動している経験者だとか、吹奏楽経験者などが対象になる。そちらの話をしていかないと何も進まないだろう。出来れば、顧問の先生と話をする機会を実証まで行かなくても、まず話し合いを持つ機会を作っていく必要があるのではないかと個人的には心配をしていて、文化芸術系についてのスケジュールなどは今後示していく予定があるか伺いたい。

(横川教育総務課長)

今回スポーツ部活動の検討委員会ということで今年度は開かせていただいた。令和5年度については、文化部についても検討委員会を立ち上げて開催していかなければならないと思っているので、この会にプラスになるのか別になるのか、文化協会や他団体を含めて検討する課題であると思っている。吹奏楽部が移行にかかる問題課題が多いので、令和5年度から検討していく。

(谷内委員)

分かった。3つ目、先般小学校に入学する保育園にいるお子さんの保護者の方々の学校説明会があって、私も参加した。保護者から部活動の地域移行の話が出て、どんな形で進むのか大変気になっているという声が出ていた。小学校に入ってやらなくても良いが、スポーツや習い事をさせていて、中学校で部活をやるときに、継続してやるもので何があるとか、例えばサッカーや野球をやらせようとかいろんな事を考えるときに、部活動が気になっているという話をした。その方の趣旨からいくと、実はこの委員会に参加していると言い、分かる範囲で話をするとしたが、こういうところでの会議の資料や議事録の公開が何も無い。検討しているのは分かったけれど、何故見れないんだというような指摘があった。たしかに気になる方からすると見たいだろう。もし可能であれば資料のPDFや会議録も一言一句どの委員が何を言ったのかではなくて、簡単なもので構わないと思うので会議録の開示をしていただくと心配な親からすると、今後は中島から始まると分かって、じゃあ能登島はどうしようとか、ブラスバンドはどうしようとか考えやすくなると思うので、ぜひ会議資料の公開をお願いしたい。

(横川教育総務課長)

本来であれば、今回の会議にあたって前回の会議録は出すべきかなと反省している。次回会議には、第1回、今回の会議録を添付させていただければと思っている。また、ホームページ等に公開できるものであれば趣旨等を書いて公開していきたい。

(谷内委員)

委員の皆さんにお話ししたい。この委員会の何が議論されて、今後どうなっていくのか情報を知りたい方は多いと思う。ただ、委員会議事録が公開になると発言し

にくくなるとか、困る方がいるかもしれないので、委員会として公開が大丈夫なのかどうかお諮りしたい。配付した資料については公開されているものだと思うのでPDF等で公開していただきたい。議事録は、委員会に諮って検討して欲しい。

(八崎委員長)

名前を出した上での議事録でしょうか。

(谷内委員)

そういうところまではいない。

(八崎委員長)

話し合いの概要と結論が出れば良いか。

(谷内委員)

そうだ。

(八崎委員長)

それがホームページ等で保護者や地域の方に伝われば良いか。

(大森委員)

この内容はゴールが難しい。恐らく、どんな結論になったかは出せないものであることを考えなければいけない。私の大学にこの問題のプロパーがいて、全国をこれから回るんですけど、結論は出ません。こんなふうになれば上手くいくというようなことを伝達して行って、そして全国こんなふうにしたら問題は解決できますという答えは持っていません。各市町村で問題に取り組まなければいけないが、例えばこの表になっている中学校とコメントを出しました。そうすると、これをどうとるかも認識しなければいけないので、公開することについても、現状ここまで来て、このようなことが出来ているということを公開することが良いと思う。意見というのは、通るかどうかわからない。それからそれが正しいかどうかもわからないということです。日本のスポーツ界は、今まで上手くいったことが一つもありません。いきなり重いものを我々は背負ってるわけで、公開の仕方も少し委員会でもんでいただいて、限定的になるかもしれませんが、そのようなことになるということを私たちは共通認識しておいたほうが良い。何度も言うが、ゴールは見えません。例えばやり方として、成功例をどれだけ出せるかだと思っている。随分前に田鶴浜が総合型スポーツクラブとして始まった。全国の総合型スポーツクラブは成功しませんでした。ただ、一つ一つ競技団体の成功例はたくさん出てきた。例えば長野の白馬村のスキークラブ。オリンピック選手がたくさん出ました。それから今、白馬村はスキー場が大変になっているといいながら、外資とかいろいろなものが入ってきて、彼らはスキークラブがあって、しかし子供がいなくなって誰もやっていないのが現状。つまり成功例と言いながら、何をもって成功例とするかわからない。ただし、地域の間は皆スキーに携わっているのだから、そういう環境を作ることをもって成功例とするというような、今我々にとってはピンと来ないような話なんですけども、そういう状況を作れるところが成功したと言えますから、ただそんなところに今から持っていけるかどうかとなると、なかなか厳しい。皆さんで意見を

出していただいて、我々はこれができるというものをどれだけ出せるかが、ある種のゴールだと思っているので、そういった意味でも意見を出し合っただけで欲しいと思う。

(八崎委員長)

大森委員の言われたちゃんとしたものを作るというのは、公開する中身の話か。

(大森委員)

公開する云々というよりも、そのイメージが湧くかどうか。公開する意味があるのは、イメージを皆さんに持っていただけかどうかだけだと思う。それが作れるかどうか。とても難しいと思う。中途半端なものを作ると錯そう思う。

(川下委員)

先日PTAでもアンケートをした。会員2千数百人のうち40%が答えていて、とにかく部活動の民間移行については、ほとんどの人が知っている。約11%が知らなかったと回答している。この結果は後日、教育委員会と共有したいと思う。「内容についてよく知っている」が15%、「知っているけど内容は分からない」が53%、「あまり知らないけど不安がある」が23%と差がある。こういう形でいきなり委員会の文書が出るとたしかに難しい。取捨選択すれば、今こういう目標で動いているということを周知させる段階だと思うので、どちらにしても保護者の方々に、周知をするツールがあればいいと思っている。その内容については議事録のそのものを議会のタイミングもあるでしょうから、リアルタイムで出せるか分からないが、ただ七尾市の部活動についてはこれを目標にやっていると。最終的には、理想と現実の落としどころは探していかないといけないが、まずは議事録について、こうしているという表現が出来れば、それをPTAなり、各スポーツ団体にいろんな媒体で表現できるようなものがあれば良いと思う。

(佐原副委員長)

準備にあたって、11月24日と2回したが、来年度からは3か月に1回の委員会をされるが、このスポーツクラブの運営担当の立場から言うと、大森委員の言ったように、ぼんやりとしたイメージから湧くようにするためには、実質的なことを具体的に、例えば指導者の確保はどうしたら良いとか、謝金はどうやって払っているとか、月謝はどうやって集めているとか、問題点やトラブルとかそういうことを3か月置きにでもやって、次の年に繋がるんだと思う。

(大森委員)

さっきは事例の話をしたが、正月に行われた箱根駅伝で中央大学と青山学院大学が競ったことがあって、その選手たちが豊田出身だった。そして、全く別の中学なんです。中学の陸上部ですけども、大した選手たちではないということで、トヨタ自動車が少しバックアップしてくれているトラッククラブがあって、週に4回だけ走り込みではなく、走る技術を習っていた。将来、好きだったらやれよというような育て方をしてもらって、そこでやっていた選手たちが大学生になって活躍した事例があった。今みたいな話は、豊田という地域の独特の何かしらあったからかもしれない。トヨタ自動車の陸上部が解散みたいな形になっても、自分たちで何かしらやったかもしれない。というようなケースは、恐らく各スポーツ団体にいろいろ

あるはず。それから運動部活動以外のもの人気があるのは格闘技だったり、そういうものを洗わなければいけない作業がある。何が言いたいかというと、中学校に拘らない話、それからここに行けたらできるというのが、一つの方向性ではないかと思う。谷内委員が言ったように、能登島でやっている方々が、どっかに行けるような形。都市型はウイークデー、地方型は週末というような形をもって、ちゃんとした指導を今までしてもらえなかったレベルの高い指導ができるかどうか。最終的には、独立自尊できるかどうか。選手たちが、子供たちが自分らで考えることができるかどうか。その場を与えられるかどうか。指導者がいなくてもできるかどうか。というようなところまで、地方の場合はそうしなければいけないだろうと思う。何かしら方向性を考えないといけない。今の私は中期的な視点だけでも、そのシステムはさまざまな運動部だけではないと思う。この2点から考えないといけないと思う。

(八崎委員長)

保護者、地域に説明するところに戻るが、中途半端に知っているということで逆に不安があるから、やはり説明責任があるのではないか。その中身については、十分に考える必要があるんだけど、とにかくビジョンを明確にして現状ここまでできて今こっちの方向に進んでいるということは、何らかの形で知らせる必要がある。その辺りが事務局で少し相談して形を作ってご提案させていただく形でよろしいか。もう少しご意見をいただいてそれを付け加える形もある。

(谷内委員)

先ほど申し上げた公開の話は、単純に6年生の児童の親が、来年中学校に入学される子供をお持ちで、部活動についても子供が考え始めている。従来でしたら学校にある部活を選べば良かったが、今みたいな話になってくると、少なくとも来年度に関しては、能登香島中学校は地域移行とか休日の実証実験は無いようなので、普通に部活動をさせればよいという考え方でいいが、保護者が何を気にしているかというと、先ほど謝金を指導者にどう払えばいいかとかの実態でしたけど、親が気にしているのは送迎なんです。実際、平日でも能登島では送迎できなかったとか、中島もそうじゃないですか。親が送迎できる子供は、部活動は出来るけど、そこに対して夫婦家族を含めて出来るかというのがあって、大森委員が言った、これを機に地域がスポーツ文化芸術にビジョンを持って、市民がそれを運営していく。学校から移行するというのを捉えて、きちんと考えるのは魅力的ですし、チャレンジし甲斐があるテーマだと思う。一方で、今情報を知りたい方々の思いは、送り迎えが必要なかどうかの話だと思う。この資料だと少し一人歩きしたりすると、可笑しいことになるかもしれない。そういう意味では、少なくとも能登香島中の皆さんは、来年度は地域移行に関して何も考えなくていいですよという説明があればそれで良い。ただスケジュールが段々と移行していくのを見ると、家の子は3年間はとりあえず学校なんだねと、少し計画が立てられやすくなる。ところがこれが2年生のときに地域移行が決まるんだと思うと、そこで送迎が必要になるんだなと思うというように、そういう意味での情報を知りたい。受け身の市民を想定しまっていて、大森委員が言った自ら参加しながら一緒に作っていく、まちづくりとしてのスポーツ移行とか地域移行の話で、全然かけ離れた話なんですけど、実際気になっているのはそういうことなんです。七尾の街なかであれば余り交通のことは考えなくていいん

ですが、我々田鶴浜、中島、能登島は交通の問題というのが親にとって実は部活動に関して言うと、送迎が一番の関心。親へのメッセージとして出せるもの。あとこのままで良くないとなれば、何らかのコミュニケーションを取ったほうがいいと思う。

(八崎委員長)

送り迎えを気にすることは良いと思う。ただ1年1年しか言えない。来年度は中島がする。そして、順次5年度、6年度、ただどの学校が2年生から始まるとか、そこまで大丈夫かということは逆に言えないんじゃないかと思う。事務局どうか。

(横川教育総務課長)

5年度4月からは体育協会、スポーツクラブ等をお願いをして、指導者を派遣できるか競技があれば、その部活動で6年度から移行していきたいと思う。その都度、会議で報告をさせていただいて、次はこちらの部活動という形で進めていきたい。

(八崎委員長)

はっきりした時点を出すということで、4月時点ではなくて、ここまでなっていますというのを出していかれると、保護者の方も少しは対応に困らないのではないかと考えている。

(横川教育総務課長)

一番の問題は指導者の確保なので、今教員向けのアンケートも取っている状況である。中間状況についても説明する。

(山原学校教育課長)

今週末を目途に、全小中の教員を対象にアンケートを取っている。280人が対象で、現段階で210人約75%から回答をいただいている。小学校、中学校合せての回答になるけれども、その中で部活動指導員をしたいと積極的な人が7名、してもよいと肯定的に受け止めているのが24名ということで、全体の31名の方が地域移行したときに部活動指導員として参加したいあるいは参加してもよいと考えているということになる。割合ということではなくて、それだけの方が地域移行してもやりたいと言っている数字は意味がある数字ではないかと思う。

(八崎委員長)

現状で31人が地域移行しても指導員として指導したいという人たちがいる。まだ増える可能性もありますね。

(山原学校教育課長)

そうです。全体の75%の回答なので、この数字の中には小学校の先生もいる。実際に部活動に関わっていない中で、こういう状況になれば関わっていきたくて意見を持っている方もいる。

(八崎委員長)

アンケートの中間報告でしたが、アンケートについて何か聞きたいことがあれば

どうぞ。

(前田委員)

進めるにあたって、中学校と地域スポーツクラブの人が寄って、話し合いをする場があるのか。その場を誰が設けるのか。その辺も確認しておかないと、幸い中島の場合は何年も前から今とよく似たことをやっている。そんなに問題は無いと思うけども、うちの孫もスポーツクラブに入っている。学校は休みだけど、スポーツクラブに行くこともちょいちょいある。そういう話をきちっとお互いに理解して進めないと、ちょっとまずいのかなという気がした。

(八崎委員長)

中学校と地域スポーツクラブ指導者のすり合わせがあるのかどうか、他の中学校に聞きたいということですね。学校の校長先生に聞いたほうがいいか。

(野見委員)

七尾東部中学校ですが、今のところ地域スポーツクラブの方と学校が話し合う場はありません。

(八崎委員長)

部活動の時に話していることは無いか。正式ではなくて。

(坪野委員代理)

部活動指導員として話す機会はある。団体の方と話す機会はない。

(八崎委員長)

全部の部活に外部指導員が入っているわけではないんですね。外部指導員の方は当然あるけども、地域の方が入ってくれていて、その中で話し合いの場が七尾東部に無い。事務局で七尾中学の現状は把握していませんか。

(山原学校教育課長)

私は把握していません。

(大森委員)

仲取り持ちをどこでやるということは決まってないということですね。

(横川教育総務課長)

5年度から中島中学校で実証実験をやらせていただくので、今後の手続きの方法とか、学校を含めてスポーツクラブを合せて協議していく話なので、そういう場は設けていきたいと思っている。

(大森委員)

そういった意味で言うと、自由なんですね。

(横川教育総務課長)

1回ルールを作ってしまうと、そのルールでお願いしていきたく思っている。

(大森委員)

予算が大幅に増えるとは決して思いませんので、自由がキーワードになるかもしれませんね。

(佐原委員)

モデル事業の中で、お願いばかりなのが、これだけインターネットが発達している世の中になったので、例えば中島中学校の中で、部が4つしか無いですから、それ以外に陸上をやりたいとか、そういう子がいるかもしれないと思う。大森委員が城山で指導している姿をパソコンで撮って、各中学校に連絡しといて配信して、やりたい子はやるという、十分環境的に出来ると思う。そういうこともモデルとしてやっていただきたい。指導者の確保にもつながるし、十分できると思う。

(大森委員)

故障者が出たときの保険の問題が出てくる。今までの学校の保険は適用されるのか。

(横川教育総務課長)

別です。一人年間800円です。

(八崎委員長)

一つの手段として良いと思う。参考にさせていただく。

(作井委員代理)

佐原委員が言われるように、来年度中島地区でモデルをスタートするというところで、その様子をこの場で報告してもらうことは、とても良いことだと思う。一つ確認で、来年度の土日1日だけの移行をモデル地区としてやるということか。部活動全てではないのか。もう一つ確認で、何年かかけて土日いずれかの部活動を地域移行するという考えか。平日の部活動も全て地域移行はまだ考えていないということではよろしいか。

(横川教育総務課長)

最終的には、平日も踏まえて部活動を地域に移行する形になったところだ。

(作井委員代理)

それは大体どれくらいで。

(横川教育総務課長)

それは分かりません。

(作井委員代理)

3年後ではないか。

(横川教育総務課長)

それは無いと思う。

(作井委員代理)

8年度までの見込とすれば、土日いずれかの部活動を地域移行することを、この3か年で考えるということでしょうか。

(横川教育総務課長)

そうだ。

(作井委員代理)

わかった。

(八崎委員長)

平日は、それ以降まで続けていくということでしょうか。

(大森委員)

中体連がどのような形になるのか。消滅するとなると、全く違うことが起こる可能性もあるけど、柔軟に考えないといけない。

(作井委員代理)

平日になると、指導者の確保はとても難しい。

(大森委員)

自分たちでやるかどうか。

(作井委員代理)

地域移行という簡単なもので対応できるのかどうか。専門の人員が必要なのかどうか。七尾市だけではなくて、全国的な傾向というか問題として発生してくると思う。

(大森委員)

毎日の部活が無くなり、練習時間が縮小し、それで効率よくできるかどうかを考えないといけない。我々が持っていた根本的な運動部活動の悩み、それから問題点を上手くすれば解決できる利点もある。練習時間が長ければ長いほど技術が高まるかというところと全くそうではない。週に4回の練習時間で成果があるかもしれない。将来的には全国大会に勝つとかは置いて、高いレベルで満足いくところまで考えたら、今負けても自分でやりたいという気持ちが湧くかどうか、今燃え尽き症候群が多いので、スポーツ界の大きな悩みですから、そんなことについても根底にスポーツ庁が押し進めている背景がある。

(八崎委員長)

そろそろ時間になるので、最後に何かありましたらお願いする。

(前田委員)

私だけかもしれないが、この問題は教員の働き方改革から始まっている。元現場の人として思うのは、先生の数を増やせばだいぶ解決する。七尾市教育委員会でこんな声が上がったとかがないと、なかなか改善しないと思う。

(谷内委員)

最後の確認ですけど、保護者向けに少なくとも今後実証実験などを踏まえて、土日のいずれか部活動の地域移行を徐々に進めていきたいということだけはお知らせいただいて、まだどの中学校でどうだとか言える段階ではないと思う。今の資料1の1の中学校が報告をした部活動というのも、何らかの基準があって報告されていて、これもどうするのかはこれからの話のところが多くて、あと中島だけが条件が揃っていたということ。それをマニュアル化していくとか 保護者が知りたいのは地域移行をどうするのかだと思うので、少なくとも土日いずれかだけは、今後も部活動はあるんだということがきちんと出れば皆さん驚かないというか、一先ず安心すると思う。大きい話をしていくとなると、保護者と指導者含めて皆で考えないといけない問題。その時、現役の子供がいる世代だけで考えるのは違う。前田委員のように、もともとやっていて、指導できる方もそうだし、これから子供をどこに向かわせようかという親もいるし、本当に難しい。誰を参加させて、どんな場を開いていけばいいか、中学校と指導者の会議でもやればいいと言うけど、相当混乱する。この委員会で来年話するのであれば、実証地を増やしていくときのやり方とか流れとかも議論できたら、原案を示していただければと思う。2つあって、保護者向けのメッセージを出して欲しいということと、来年度の進め方を少し議論をするための原案を示していただけないかということです。これは要望です。

(八崎委員長)

小学校6年生の保護者向けの中学校説明会に、来年度の部活動は今年度と変わりません。希望制になります。部活動は無くなるわけではありません。クラブからも参加できますが、部活動と同時に出ることは出来ませんということは話したんですけれど、口頭では理解しにくかったのか。

(谷内委員)

それが伝わっているのは、中学校説明会に参加していた親だけなんです。文書でも出てないし、他の親は伝言でしか知らない。それは可笑しいでしょって話です。

(山原学校教育課長)

昨年末、黒崎教育長のメッセージで全小中学校、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒の保護者に向けて動画配信を案内した。そこで出た質問について、今教育長が話をした2点について、中学校説明会で説明させていただいた。

(八崎委員長)

保護者の方に安心して、こんなふうに進んでいるということをお分りいただくような提案を、事務局で考えて示すということによろしいか。

(谷内委員)

はい。

(八崎委員長)

全ての議事が終わりました。議事の進行にご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しする。

(横川教育総務課長)

貴重なご意見ありがとうございました。閉会の挨拶を佐原副委員長にお願いする。

<閉会あいさつ>

(佐原副委員長)

行政、地域、保護者が皆で連携して、子供たちのためにしっかりしたものを作っていく話だった。事務局は大変忙しいと思うので、もしデータ処理とかそういうものがありましたら自分のところに持ってきたら手伝う。皆さん今日はお疲れ様でした。

(横川教育総務課長)

ありがとうございました。以上で、第2回七尾市部活動のあり方検討委員会を終了致します。